雲巖集 上下

天明四年

南天

中村俊定文庫
文庫 18
608

無名集

上

佐藤家

宗教福田図書

一、家の藤は集おりもひあり、こゝ
おのもとの乃白きもし連白
かさ日八の他と就てもい
校会平乃空ら所のさか
いてきて校もりまるもり和た
ものもとりこ
ものおとこ
おのれらるにしたの手で
おのれらるの罪されとせる

中村俊定文庫

天明四甲辰

[illegible]

天明辰の春　南人

短冊にかり三ツ又懸物にもしたり

毎月集

春の部

梅

かいしらしいさ梅も梅の花　移行

梅の花やおもふ所の朝ぼらけ　宋史

ちる乃梅と咲の[illegible]　蕪

雪のむかしあさ蒼の宴さかり　宣雅

日乃出や窓ゟ梅の風　南山

鶯毎年梅あるこゝろあるを　吉田　蓼文

さまざまりや笹まはあく宮の梅、　雲裡

折かと乃枝ふ宮ゆり梅乃まち、　良水

むらの香ゆとこやらぬる月新代　田原　毛條

ひろやかふ咲て梅ゆ苔の梅、　中村　夢

二三輪ひらきて毒乃白ふうる　素考

ひのしと乃うを川梅乃光うふ　近八郎　宗右

立まふし藪ゆり巣のゆめ、　サムラ　美

梅の方枝ゆ立ゆ　ヌアぬ　ぬさ

火ゆ毒ゆうゆ梅のちまんゆる　ヨハリ　曉雲

ちふゆ咲てゆ梅の毒　ナニハ　江風

梅を見て花ゆ梅ゆ　ハリマ　すが苑

梅ゆ香ゆ梅ゆとゆんをつゆ　イセ　種紙

たゆのまふ毒ゆぬを社ゆ　ヒシ　古流

おゆ毒ふ咲ゆ月ゆ　ヒセン　赤川

梅ち新ゆ毒ゆ　サツマ　吉成

世界に梅一滴乃ちのこる可卯　冊三ツ　東白

ゆとうとなる風雲好乃春のむめ　但白谷　桃妙

梅花や庶まく曙岩たく　カ、金貴　英花

しゆとうや白の陰りなる梅乃思ひ　小ツ　尸竹

うめう秀ヒ人里遠き夜乃月　ノト思シマ　丈ト

蕗乃乃四り春の猫の子　高井ナ　志史

祝ほしや魚ほきはりの梅　エ玉　草丁　蓬

梅ぬてゑ乃内白ふ乃ひの邦　イエ戸　竜化

以上類字

宇之日寸

学乃おとるふる和ゑ子　毛　坂仄

うゑ乃ふ多ゑ小ゑ乃白梅　カ小ツ　一谷

学や四月　子　凡芝

はゑ乃ゑ多ゑ　ゑ　芙蓉

学ゑ　おかゑ　ゑ　漢良

ゑ乃ゑ乃梅　ゑ　茶蕾

うゑ乃ゑ乃二日　南天

閑居や芋を植ゑて月を見る　越エ十日丁山之

柳　樹

柳なれて秋風ぞ聞く　カヤ山ノ

古寺の風ぞ吹くなり　イトカヤ

出て見ぬ柳の影の月　杖ト

川越すと寺の目前の花ぞ　越世ミ

青柳や面白しとは見ぬ　詩秀

名ばかりの柳なり　夏

高野や一枚桜の陽まうけ　呉々

赤桜寺門のあなたを見ぬ　大伴　吾今

行潦ひて久しき橋ぶ　田ウ　也竜

谷の秋ちるよりあせる桜　古夜　二柳

紅葉

芝居もて群衆の月　穂月

閑所の方相の月　芳　重厚

川の流の初雪の日　田ヲ　阿部

春のみとりより志賀比叡や　義仲寺 祈風
畑中の春中見えて遠ひとし　蘭大
ささ春子風の陀にも遠き哉　田原 春佐女
一畠組や去年鴨の流れとも　、下亭
さましけや蓮さき春の火燈かな　カヾ 蕉也
春の世や伊賀の伊賀の破りささ　丹後宮津 文之
うす墨にかすむ山のあさしかな　カヾ 暁吹
細きや山代の雪ぬ鳥の陰　、絃之

咲残る春のさくら待つ人や　、舎琴
花咲かやつぶれかりやん廉の南　丹波 春浦
鴨ー
たくしとあそんでみる春のー　寄丈
かりのゝのちつさ雨しの亭　汀雁
春の縁り身に霞ま等　雨花
つぐみ川乱れ行くのゆくえ　白石 計萬
初つ春の空より雲に帰るー　女 民葉

試毫

春として能き人の来る日和哉　蕎渕

花の香も赤土山も霞こそ　久留米 陵下

月の影や手を出す山霞　其の雪　玫井

山寺や梅ほどの風の梅匂ふ、素玉

陽炎や猫の影多く石の上、麦秀

灰汁流て桃の匂ふる盟かな　楚行

桃山守りの付りも

上れ為舞ふ長閑しもの花　李音

桃山や花より早く躑躅　甫尺

花

花に猿ま折らはれん風情かな　大坂 とこ

もろ人のうつとも夢にみる　桜井ナミ 女史

陽炎もまて浮かれて花のちらし、麻吉

静さや山路の袖に散さくら、談太

咲ちまで　次第に甲斐ある人の歩、太乙

かるかやなせり孤陽のさかりかな　不名ヲ　臨風

如雪て三つの雪を振る　柳糸

みの色のうきもる花のおもひ　文彩

人ゑの梅の中に開けり　庶峰

原富子

花ちる時見し白菊の冷え　洛山

かるうの花もるるすゝき　淀　蒔

禪門の花を見し金仏　茶蓋

[illegible]の[illegible]の[illegible]り　美

たて換ふ人通りけり花の中　良

嵐山

春ゝと花を原めるあり山　嘆

日あるとうるおもの[illegible]山　臥

[illegible]

ゆきのけ[illegible]の吉野山　東

もるる春を振るもしらの川　苔

[illegible]

近連連して花茂し　越後　徐々坊

きのふからよねさまに撫ぜ　南人

あのむかしの孤なる茂かり　武蔵　亜溪

ねんとあ撫ぜ　山桜　甲斐　浅扇

月やさるあのまつまつ　世笠

宇都

ちらの世や桜さくのも子さうも　門　芳ふ

町中もものさかりを旅の伝　拾葉

メのすみ　有ふを桜は新ふ　紫葉

小雨とと桜ハこまるあ　山吉表　乃林

むるあれを　さくあ　こ田　南岳

咲や桜八ぬ間　紀七郎　たか

むさきり　陸奥の山の雲あ　対馬　泉秋

中しみ宮ゆもらし　武の山　近仁住　[illegible]

ふ忘一異　ちるあ　ありさ山ふ　阪白子　巴水

お題はすゞし

さえ〳〵ともまらつきん山を　雲又

春の山を田に阿笑ひ跡　東人

九かんの粉り粉るゝすすて　冷五

鶏飯召れものしきおり　李青

跡のそのおとこそけり月の跡　桂竹

小菊も人足を投ちし　茶谷

山しとまて鼓を海あり　漢民

竹若の車光もまたりん　文

つまきまさ子の鶏て菊や覧すみ　尺

あやめきよけ香咲し新蝶子　五

黄枕と札とつけて御整云　吾

不図招ひも年蔓のもとす人　以

おのこ笑子花のもし気を笑はれ　呰

掃揃おゝす嗚鳴花の月　漢

元禄十年中の嵐雪　文

雨のあるうの風のあるうの　尺

うぶすなは疫神なれども　立

やよひのあこてり藤　方

小藤繁茂の里の長う家　川

狸の化るはなのあるうり　蓉

下略

於乃川高野

是嶮て乗乃庵も白ふ

神ふ庵ふ　老の日の色　養文

ふるゆく乃　雑ふの峠去て　南天

牛を引て　ふ行ふ　茅ふ刈　尼

いさよひは　四五本ふ立根　丈

使ふり　養徒元明ふ　秋　尺

はゝ米行付て亜国仕廻　尼
愛宕乃風雨の降　ゆ　丈
市ヶ谷施主思ひ立て　八
こんやく意のおもひたち　尼
就て七八日の市の為ひとく　丈
思ひのよろん軍のもよ　八
下略

雑

蝉　蛙　蛍　蝶　牛の糞　松化
蝉やうるさん　ものも牛の糞　カヽツ　の天
川ゆるる　ゆるる時の光　田ハラ　金杯
士生堂　比叡　門ふる　胡蝶　イトカハシ　都山
秋風　ゆ　蛙の　住吉　川の上
蒲　見　蛍の　月　秋　帰　蝶
月　郭　閑　と　蝶　蝶　胡蝶　田ハラ　金杯
蝶　蛙　蝶　蝶　阿部

[illegible]の[illegible]　[illegible]
川風[illegible]

上巳

[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとけなき[illegible]山々のあらめ下　曉雪
山の尾や梅[illegible]　[illegible]
夢もや[illegible]里[illegible]鶴の巣　合歓
三五夜[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

麦の部

初夏

時鳥聞かんと戸を立て寝ぬ　標良

初鰹仏仙

五月雨に月見ぬ宿の鄙公　標人

百合の花時鳥すむ山路哉　文艶

夏草や旅人の笠柏　冊口

ほとゝぎす佛ぬるの如の者、踏山

笠を曲め羅完あやまり　但ゝ真聲

初ほとゝぎす時の一聲　但ゝ松童

部屋に初ほとゝぎす夜のはつこゑ　涼角

高説ゆゝしや山中の冥の声　近ハ十郎

ほとゝぎす供せ麻衣世間ときす　文花

いくたびや土をうつよ　尾はせ　恭文

杜宇門の初ほとゝぎす夜のあけ　良角

拓殖のうく此ケ門のけうる　安雄
如を好きを六四の春るまりは　望房
而とものあ水や郎のけう　不打

旅り

宮のゆや手紙帰我子おそ見　雪文
手紙ゐり駅ゐ雪ゆ　其成
おさはいうと
いさ蝉なり筋
宮しを大山所の渡よ雨ます　几董

山や新緑の色のあます　左條
からこの伝ふ和の雪やけう　李音
ひとまを乞りの里の夜明ら　涂谷
中くを　あの雨の杜宇　東山
ゆを帰やるみの西見る　東是

郭公

山路来て里(も)なけ一の花　之兮
鶯の人工蒼昭ゆ雪　時夢

家々に灯してちさき野をあらし　如山

風の都の拍子の町くらき　六ッ 栄堂

菊落て夜寒千門やも菱　小サワ 標人

卯の花や一隣ふ居夜　クロシマ 茜阜

楊の所をかゝし記験ゞ晩　蕪村

うれしけニ堀の花つゝ給へ　南人

日まはて都みさしも伸ちる　但出石 元智

鋸寺ニ秋のた納るめのとよ　楚抄

歌仙一折　暁台

かけ捨ゆるゝも女子の一尺

ねむつらる夜の日下て　南人

つめ人も多き世の中ニ琵琶抱て　墨生

星れて花を酒ニかえさし　良範

みなの野ら鉢の吹おろす　也雄

豊此隣値へ車押かれ　悲

垂穂に袖濡らしぬる後ゑけ　虎

志のゝかあきたのしらずの　丈

色好りし扨とひ夢別して　女

風のよみちの名の日月の　狸

名ゑる甲斐の旅掛けれまさり　芭

杜律をとらふ連の山伏　尺

かと使をたんて呉て月は法　丈

飄て生し黄葉あきく　女

岩れありゆれ乃ささら罪権　狸

形にとて新ふ雨しらふ　芭

菩提寺の菓子諸経の際て　尺

全法も離まつらむ　丈

下略

涅槃

祝

無常のよしあしあらはす　標

捨られ寺のあらしの足しに　杖卜

不切に流れこむ雪もあらし哉　有膚

踏分て不知火のひかり哉　園瓜

干飯喰て丹波の山やかんこ鳥　寸私

鋸屑や錆そ錆る小鍛冶　也笠

出格子や斗禾度の大刀の鎺　阿誰

竹の皮や笑顔よまつる夜の月　馬蓼

我日をも乞取るも標の家　巻棲

人し浅茅か原まねきて

客亭に宿の跡人せゝ事なる　重人

前芽たかこむ西の一方　宗ち

出嫁の牧の大鞁を打立て　寛

れつきや儀をいやちきらと　一甫

被色の外西錦風さへ月　渭川

新やしきむし龍の帝　其蔵

下略

乾混

井戸称ふる所も祝ひて　冨
西も花田のあめの雫　（ツマムロ）魚潜
菖蒲湯やさらぬて比の日の南　東天
称ふ年も小雨の降る　（カヤツリ）春泉
蘭田苅の夜明をつる裸下　（越井ナベ）文寿
もつき人の旅四方の風　（九岡）梨一
乃婦の机ゆ月おろす

五月雨　芭蕉

さみだれや四の松縄ね　（但上谷）桃妖
陶隠る橋もの人も路　（大字）子路
法師や水の法けうまるる　（ヤツ）妙竹
雨の寺戸和尚の菅笠を　（秋高）牛茂
河方も茅ヶ崎の雨　（丹宮つ）法鄭
ものの年もあり木かく笠　吟士
長谷おりも人ふる小雨　丹山

[illegible]

[illegible]　素丸

[illegible]　夢丹

[illegible]　晩次

[illegible]　金琴

[illegible]　稽戸

[illegible]　公風

[illegible]　重厚

あすすし水[illegible]　土卵

[illegible]　近仁保　[illegible]

[illegible]　[illegible]　仙村

[illegible]　青度

[illegible]　[illegible]　東雪

[illegible]　雲裡

[illegible]川　内源太郎

夜ルハ又和歌の神や　川すみ　ミチノク　太夫

海さく四季川原の源氏　ムシロ　吐涌

すみ川冥加を吹物　拳夫

石燈の高さ　高さ　高さ　良孔

川高や底低の宮の傾　定雅

[illegible]

源氏川　日乃すむ　[illegible]　南天

蓮

水の面や[illegible]水花を[illegible]　宗夫

[illegible]　南天

夕自や小[illegible]あるの秋近き　井石川　宗夫

西念の壺の自蓮咲[illegible]　[illegible]　騒道

[illegible]　宗理

[illegible]　セミツ　長河

混雜

下萩中日よりかくれ出
度事和歌乃かきり成物の又
時能と哉咲ぬしかあるう
神宮と成ぬ宅鏡又中間往事
永享信十三年八月十六日後冬今
事成すくるる事乃仰頼ん

上しゆ沈

西行宅尼
春四
丹ミナト
江藻
詠歌
定雅
南大
カ、ヤ
よん

四季系条

下

無名集　下

秋の部

初秋

秋さらばやまのこずえのまくず葉　嘉茂

あきさらば裏返してあるぬのうら　嘉茂

七夕の恋ゆゑこめて焼れうふ　蓼

雑部

恋

恋ちとや　河辺の柳　南人

形影自相憐

起しも続するとけさの秋　八重

秋とゆやちまし第り懸る　蒙

七夕

既り秋の明る色あり二つ星　麿

雷乃ちる花と流れ大の川　一夢

星会も自ら抱きす一夢かな　よん

女房と寄す戸星まつり　高

江涯

きりしたき時ちつめとる秋の夢　仙尼

ちりしすかくるやゆ秋のかまり　桃如

下冷やしきまおろ夜の嵐　映尤

秋二日相ゆこ寒ちる夕の雨

世の中しいかに神乃うの一条代　言声

日和もまきれぬ秋のんれ　東

秋ゆ似るうしー御宮や差条　美

おりて法師（りう）説まいり　法師
第市の男かいし玉はるり　其成
見ゆる蛍し　七ツ下りの本種を　五庸
世ひてのこひしの歌うゆ　四人
うとしく宮ふんてゆく　近衛　良夏
法師まいるこゆむ田ひぐ　法篇
時ちやはたはるの歌の　一夢
ゆしゆや蛍の下ちる実の上　四ツ

おとり
四五人ちりの月元ちの頃ちる　夢
春てゆはおとりも秋のはる　世日　成信
ふるゆ秋四ちのゆ頃ちる　其夢
ゆちる表をみるゆ頃　工藤　勝田司　史か
下ちれ世夢ちおかるおとり　東人
四人坊ちゆ隠世　紀のおとり　年保

みちゆき

侍乃上臈尼ゆゑおとろへ宮雅

也橋乃姫四位の上の月　南天

きのふ見し秋の夕べの月ぞ

今宵風情の　そくおすると　雅

ひとりぬる夜のなごりの

袖ぬらす　天

かつらぎの峯の高ねの

白雲とともぬる遠のうき　弘雅

ものゝ中にも　なんぢをやうの

時雨　天

時雨して　清水

時捨し　清水人の　雅

為みし　流れの

月　雅

隠居のきくこゝろ

隆の言　沉む

世　教の年　天

盜人の程経る秋乃月
猶馴たんりまゝ馴り人
花乃ゝ蔵の花の香ゆゑ 雅
名乃ゝ名ゝ名ゝ名ゝ 雅
みれ義見て佐ゝ義 雅
博をよまるゝ人

下略

管茶苑 例に
刻本富山俳書
直生
刻一の原稿を卒

稲書

稲書りるゝ和歌
いなほ戸やよくしの尺小和 真生
稲つまを言の五言 久之
つまるん新つ月 月川
生るて つまは 雄川

歌屏

時雨し在一和る松のゝ 素堂

[illegible] 南宗
[illegible] 百節
[illegible] 三河 其雄
[illegible] 一夢
[illegible] 乙條
[illegible] 阿事

序

[illegible] 芦の中 芦太
[illegible] 櫻良
[illegible] 荻田
[illegible] 岩下
[illegible] 毛理
[illegible] 南大
[illegible] 田辺

[illegible]

日のよさん飛るもの丸なる秋晴　[illegible]

おもしろき空一面秋のけしき　[illegible]

[illegible]の屋より鶴[illegible]の[illegible]　[illegible]山

[illegible]そのの秋[illegible]咲し花菊の　[illegible]

あやはのもの秋[illegible]の[illegible]の[illegible]尼　赤[illegible]

吹けば[illegible]の[illegible]の[illegible]めやとり　[illegible]尼

門の小四方より[illegible]ようなる　[illegible]尼　[illegible]

秋風　秋雨

あきかぜや[illegible]の[illegible]　[illegible]

さらさらと芋の根を洗ふ[illegible]　[illegible]

[illegible]をつる[illegible]の[illegible]　[illegible]人

[illegible]や[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

秋雨や圃三反　杉乃苗　重厚

菊

[illegible]の[illegible]の[illegible]　[illegible]

[illegible]の花枝乃人りは日乃暮り　イロ　大きふ
[illegible]　沂風

庵　雄

庵の京細き[illegible]　冷土
しらぬ京忘せまりて如あ細　平ロ　日
[illegible]川めく春風　冥
[illegible]　イ寺ロ　金毛
桜おやおしら乃花小夜庵
[illegible]乃夜よ京[illegible]　ナタ　大春

[illegible]のまを寸付さう　南天

月

[illegible]て月乃初[illegible]　常亭
[illegible]　仁庭
川乃[illegible]　イセ　[illegible]
[illegible]　五ヲ　[illegible]
月[illegible]　十六　虎雄
みの[illegible]　と

名月や日ごとに雨の雲　一白尾
名月やよもぎ刈る、陸の路　千鶴川　麦秀
かし船や出て行つく宮月　重種
名月や人ありなりに先きの　嘉
雲やしとまとまる松の月　春夫

芭天

日立てゐも百姓又ち松　宗文
五夜時先

芭て時て日のあわみのの　南天
名月やあうちなうちの澄の月　青雲
弓反乃古妻ちんち日あり　月美
かし海島ちあて宵方の月　志ぶ
ほとのあるまれ新の月　竜
名月や鳴時あらに松の関　蓁春
名月や白波の歩ちち　楚山
雲の月ちの月色

田居

苔の戸や世すてし日の鶴ヶ　素堂

石山

石山のとまんやる枕の月　曉雲

曉雲

ぬすまれぬ仇なるものは月　擽良

擽良

月すむ水ぬ須磨の浦の月　冨文

冨文

六仙

夜もすがら風ひかぬ月見哉　南尺

南尺

戸帝庵のひんぷし　南山

南山

かつぬと思の鶴よ鶴ぬ　吹雪

吹雪

思ふ事ぬ作る山のふもとく　尺

尺

後ろよりわかるる人ぬ袖　山

山

七つさがりに　高の障子　素

素

あちこちの弄を何的をうん　尺
[illegible]　山
伊賀北前より伝さりとかこまり　秀
[illegible]　尺
十年もむかし　[illegible]　山
[illegible]の月の[illegible]　秀
京恋い[illegible]の友を待ねも　尺
[illegible]　山

東京の陰の陽春の[illegible]　秀
[illegible]の[illegible]の芭の[illegible]　尺
京乃後[illegible]　山
[illegible]　秀
うのくと[illegible]の[illegible]の[illegible]　尺
[illegible]の[illegible]　山
[illegible]　秀
[illegible]人の[illegible]　尺

義経ゆかりの笛の音かまくら　天山

物ひいくせす時のわすれ草　山

嵐の風よさくゆく秋のあす　秀

何方へかゆく医者のあとを　天

紫雲寺山の花の咲こそ　山

月のみるこそ旅のもるさま　秀

義経ゆかりの笛の音かまくら　天山

物ひいくせす時のわすれ草　秀

嵐の風よさくゆく秋のあす　天

何方へかゆく医者のあとを　山

紫雲寺山の花の咲こそ　秀

月のみるこそ旅のもるさま　天山

秀

菊　紅葉や

[illegible]　蓼

[illegible]　巴水

[illegible]　竹坊

[illegible]　泊井

山里や[illegible]　江涯

[illegible]　雪徑

[illegible]　南大

冬の部

時雨

[illegible]　冬

[illegible]　播良

[illegible]　[illegible]人

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

笠はみなやけふりの人を見送る　擲人
関のこや山より明けしそれ　素雞
あるや海手月の柳を眺める　桃々
葉みる日降て松のしたれ　峯丈
笑ひや蕎麦や蕨の見送る　良々
かりそめの見ねみる花て動きぬ　雲蛇
見もせぬ雁を送りしくれ　碩六
訪やうち寄れ似合あれ　仕雁

もつての花さき海し月まつ峰　漢良
金閣をおつて隠し初あられ　甫人
ゆるまきし京のまちを思ふり　明
志れ行て鳥の下て得し　信州 自遊
しくれや浮世の晴る夢るかな　長赤間 巣白
細おのわとまはあらし雑しれ　近石ア 如水
身る辰にしおも色そ給へる　仁保 ○○
志れし臥搦も床をかゆる　カミ 志斗

十四

歌混

こすれ花みれ兼る風情かな　毛條
枇杷のむれめのすみ咲ぬらん　阿邦
冬川や雪ふるかたに牛の骨　馬琴
鍛つりこ切いねわきし宗布　小石森 瓶川

於玄化堂興行

芭蕉忌や柱のまゝに宮古　東人
乞大師宮柑ぬすまる　柳良
一林の池の億白うして　ゝ
あらるところ月の夕ぬれ　大
鷹の嘴山辺に鳴引まし　ゝ
花の中　思　水の音ゆかん　良

世の中を無常とおもひ入
ぬる人は動の後を張立 又
はるゝ庵のまくらひとつまて 良
市傳こゝまひいやめる小別 又
物あはれ八重のちるいろ後ちる 良
雲ちはく要人の門 又

卜吟

野宿

夕暮れ草枕もとまる時
枯萩も色もなし月の力をも
ヒビヒン 百木 奥アサカ 寿石
ヒ道下 木雪
ヒ大ヒラ 老樹
月の光にうつる秋の夜の風
肥ヒ 思水
世程と吹すれあふ音聞て
あるとも夏ふかみて爲中 重厚

ぬくとく暖かに大なる夷海　蓼太

もちたゝせ

孤さんの中より出るも体和　高橋

生り所　あるを見ぬるのうれしき　雪窓

神たゝす人の見ぬおもひ　呑溟（ミチノク）

もちたゝせ門主の門をよまうり　圓史

寒さ也所うる所

所うる出るも　おもひ　沸たる　南人

題泥

おもふ方立所すうる所の気配　維均

かゝる雑や　古和歌よあつらせて　東百

苦哉名利人

樂矣乞児身

かゝさけ子公利の脂あるうり　巳董

反魂花場　山よりとる　春夕　陸翁

冬の日はさすや　あるもなさ　初の鉢　陸夢

無市の海士に宿を借りて　其成
みるめ刈ると浦こぐ日の暮れ　夢丸

雪

世の中を思ひ入江の通り　江雁
紅葉やはらはれの雪の降れる　東蓋
家の方野の方なれば雪の降　園盛
雪ちらし初の子と見る眼の子　翠山
てすしとなるまで雪おもしろ　年雄

以下敷写

初雪や記しんさう犬の坪　孤雲
白雪の降りしきる大の坪　懐史
ゆき消えて風のまの崖この家　弘峰
形ばかりの世をわたる宿でしすれ　思風
住まるまでもなほ合ふるの志　冥

紅梅

ちらしと梅の思ふ月やみを　楼
行ひやまるの花の面　蓉蓉

世話ーと笑うくやみくと事り　下総　孤堂

程なく花さくやと春ごろこの方、芦間

時しり之味線ゆ火燈　作　文鼎

家橋や山陰く吉けり　怡雪

郎風乃宮祝ふ孔　陸下

賢社てさしき稲農債　蓼太

田舟漕ひて

幕見西蓮寺佛　茶ゆ湯　素水

この方

秋なやみ方ゆ品ゆて宝の人　涯

雪ちらしと不思に　好る　東大

二つ三つ松ま鳥の音ゆて、

鶴風見る題詠の世宣京　涯

月の秋羽六うちと車ま成、

上乃すまゆ乃世ゆ乃　人

下九

庭中り信の花咲にかると　淮

つる梅しれし太奈乃嫁　几

宗すゞ鳩飼ふ数苞にし　淮

父立て也会春蕣の横道　几

東乃方へ帰りなときれ　滄

冬や寒朝乃宿をむ時　几

下略

乱泥

銀付や塩魚かゞき窓の入　瓦叟

あたれ参り火燵に少念仏　肥後 連山

ともし火まじもと雨露に　素笑

蝶なきや奥よりのぞく就泊　みの 山呼

柳む子乃日代制や子の花　也笠

一日まのり諸きひとり年の市　堺井ノ二 紙秀

医者の柄覚へ八ルり自の市　巴琴

言のはや治乱ハ誠ヲ年毎度　五日　東海
大年や後ヲまけそ蓑の鐘　南尺

下之巻終

明治廿五年八月
吉岡九郎左衛門板

昭和八年七月初旬保存

水谷勇夫